

支部・分会代表者会議より



N0. 2468
2006年8月21日
発行責任者 太田博二
編集責任者 五十嵐敬

8月5日、地方本部は支部分会代表者会議を開催し、第74回定期全国大会を受けての情勢報告とこの間進められている中労委和解協議についての意思統一を行った。会議は大沼地本書記長の司会で始まり、太田委員長から主催者を代表しての挨拶を受けた後、東日本本部伊藤委員長から全国大会の報告と高野書記長からは和解協議の経過と今後の取組について報告を受けた。

全国大会報告

◆東日本本部伊藤委員長より

第74回大会は4党合意から5年の経過を経て不団結を克服し総団結 総決起の大会であった。この間の経過で最大のポイントは闘争団 原庄団 が雇用 年金 解決金の3点に絞って要求書を作成し、7月14日に国交省趣意説明を行うことが出来たこと。ただし4団体であり全ての団体と労組が揃ったわけではない。解決の基本は政治解決でありその為に新たな訴訟を行うことを決定した。またその形態と時期については中央本部執行委員会が判断する。組織拡大については職場の不公平感をなくす取り組みから拡大に努めてほしい。全国大会



和解協議の詳細を報告するエリア本部高野書記長

和解協議の経過と今後

◆東日本本部高野書記長より

一昨年の配属事件及び昨年の昇進差別事件の和解成立を受け、残る配属 出向差別事件等40事件についても協議を進めることを分護団 地方代表者会議で確認をし、これまで調査を行ってきた。

仙台では出向問題の佐藤忍さんとバニヤ社への出向問題がありバニヤ社の問題はすでに発令がされている。佐藤さんの場合は会社は通常の人事異動に任せて欲しいとしているが、現状のままの扱いになっている。この間の協議の中で組合として出向についてのルールを求めてきた出向協定を締結することを前提に、会社は他労組と同じ内容であれば話し合いに応じる態度、背景には設備メンテの出向期間のアンパラス盛岡支社では駅業務でのリモート業務のオペレーションセンターの要員62名中、国労26名が出向に出されることが会社から話されている。

であり、整備新幹線に伴う第三セクター化問題など今後についても想定しながら、出向協定単独であれば意思統一を図ってきている。和解金だが配属 出向事件に対する和解金の考えはないと会社は主張している。残るバッチ事件も合わせて和解をしたいという中労委の提起を受け結果として労使双方が受け入れの態度表明をした。国労としてはバッチ着用社員の実損回復を求め意見聴取の場を設けてもらい5名が第9回調査の場で報告をしている。協議の中で我々の主張をどう前進させていくか、全力を挙げて取り組む。その後質問 意見を挟

んで東日本本部と地方本部が合併し、大沼書記長からは地方本部の特情と補足説明がなされた。また地本からの提起として安全問題、プロジェクトとして地本が「申」として扱ってきた感電死亡などの重大事故や、またその事故につながる恐れのある事実について交渉内容や経過について橋本副委員長から、そしてアサヒ対策委員会よりこの間の取組みの経過報告とこれからの闘いの方向性について佐藤執行委員よりそれぞれ提起を受けた。参加者からは9名の発言があり、職場状況を交え様々な意見が述べられた(別掲)。

受験回数が多い人が不合格で初めての人が合格のケースが今回も。一次試験に人事考課が反映されていない。また結果について丁寧な説明がない。運転士問題は門馬氏もある。定年問題であり名誉回復を急ぐべき。バッチの問題で配属問題が遅れる事のない様に「週間現代」は組織拡大の材料にならないか。配属・出向差別事件は戻ったから良いではなく謝罪が必要。昇進差別事件の受験の問題もあり、不団結にならないか危惧の声。バッチ事件の一括和解は否定的な声多し。アスベスト作業に際しての処分問題は裁判を取組む方向で検討を。髪の色や髭を理由とした経営協議会への出席拒否は納得がいかない部分がある。試験の取組みとしてレベルアップのために勉強し講習会に参加をする、作文は事前に練習

が必要、更には助役試験を堂々と受験できるようにとあったが労組として道を外していないか。郡総でリフティングジャッキの不具合多発に対し会社は「大丈夫」と原因が不明なまま不安な中で作業を強いられている。分会で緊急申し入れも受取拒否で返答なし。支部

保守用車の取り扱いが違うが詳細を。7月1日福島地区分会を45名で結成(2面に詳細)。早期解決に向けた6月議会採択(福島・郡山・須賀川・若松)の取り組みは多くの組合員が手分けをして議員の自宅などに足を運んだ結果、地域間戻りの鈴木さんは家から片道80kmもある只見駅に配属。車通勤が認められたものの冬期間は危険も予想される。通勤手当も40km以上は一律であり改善を。宮城県支部は副委員長の退職と書記長の地域間異動により新執行部を選出した。春闘総括会議では職場の取り組みの報告を多くもらえる様な形にした方が良かったのでは。試験の取り組みは個人の意思を尊重すべきであって組合から受けようという提起はどうか。合格した仲間からは、自分の気持ちと違うことを。次ページへ

発言要旨

として総務課長に要請を行うも交渉権はないと言われている。非電化区間の中間駅には発動発電機が設置されているがマフラー周りがアスベストの様だ。福島では磐越東線と只見線が該当。宮城と山形も調査が必要。仙台空港アクセスと貨物の関係についてはどうなっているのか。貨物と旅客会社では線間作業における

前ページより 言わなければならぬのは複雑」とも。解決金の扱いはDEE基金や闘争資金に充てても良かったのでは。経過内容についても詳細を周知すべき。パツチ和解については今後には争わない・無かったことにする・ということだと思いが、50歳28万弱の基本給。処分によるものだが、和解の気分にはなれない経験してきたことのない仕事をされられ、端末画面の見過ぎが目がショボショボ。ストレスでアルコールが増えている。ニューライフルプランの説明・人生90年とパンフレット。50歳前に出て行けということか。東海会社の新賃金制度・東日本も改悪されるのでは。資料内の金額等の数字は慎重な扱いを。DEE基金は利息運用ではなく一旦返納しカンパでの取り組みの方が効果的。試験の勉強会を実施してきたが、ある予定の日に東労組役員が幹総に来るため日にちをずらした行為があった。幹総の総務科も「全てではないが結果としてそうだった」と認めている。様々なリ・クリエイションも東労組との共催となっている。健全な労使関係を作る意味で申し入れを行っているが、現状はこうした実態である。

地域間異動 復帰

佐野 和博氏(8月9日付)

稲毛 健二氏(8月9日付)

豊田 健二氏(8月9日付)

豊田 健二氏(8月9日付)

福島地区区分会 結成総会開催

準備会を経て結成へ

国労福島地区区分会は七月一日、福島市内二河町会館において福島分連協解散総会及び第一回福島地区区分会結成総会を開催した。この総会は、地区区分会結成に向け三分会(一班)の四十五名体制で準備会を発足させ結成に漕ぎつけたもの。

星修児執行委員長は多くの困難や労苦からこの総会に辿り着いた。職場に目をやればこの職場も大変な状況でまさに待ったなしの実態。不平・不満・怒りを集約し、これまでの経験を生かしながら分会全体が「一歩」でも前に出る組織運動・仲間作りを全体で確認したい」と述べ組織の結集を訴えた。

教宣活動の前進を目指して

水戸地本に学ぶ

六月二十四日、地方本部において地本教宣担当会議が開催された。会議では年間五〇号を超えるニュースを発行している水戸地方本部の坂本教宣部長を招いて報告をしてもらいその取り組みを全体で学んだ。

坂本教宣部長より

地本として年間60号のニュースが発行出来ないかと提起を受け、週一回の発行なら引き受けた。3年前からの取り組みで、3ヶ月に一回の教宣会議を泊まり込みで開催している。下地作りが大切。集会・会議に参加した人に必ず原稿を依頼すること。地



水戸地方本部坂本教宣部長を囲んで

五年連続表彰にむけて

本・支部・分会の役員の協力が必要等々。

また仙台地本で年間50号の機関紙を発行し、東日本本



部機関紙部門で5年連続表彰を目指している東北工事事務所の菊田氏からは、教宣の任務は会社の思想攻撃に対して労働の実態・事実・利害の問題を伝えることである。目に見える活動の一つであり運動のパロメーターである。広範囲に広がった組合員の絆と団結の確認。「あの記事は良かった」が支え。仲間が「るばる」を待っている。拡大班会議を持ち回り月2回開催、そこから記事が生まれている。原稿の収集がうまくいかないこともある。多くの仲間から記事を集めることが大切。等々、多くの示唆と教訓に富んだ意見をそれぞれから伺った。また各支部・分会の教宣担当者からは作成にあたっての苦労や悩み、課題と目標などをそれぞれ発言してもらい全体で確認した。

第50回 国鉄のうたごえ祭典in福島

ウクライナの歌姫「ナターシャ・グジー」をゲストに迎え
労働者の魂を歌う「国鉄のうたごえ」との夢の競演



9/10(日) 13:30開演
郡山市民文化センター

問合せ：国鉄のうたごえ祭典実行委員会 TEL&FAX 024-942-8370

主催：国鉄のうたごえ
祭典実行委員会
実行委員長：太田博二

チケット/2,000円(当日券あり)

執行委員長 星 修児(保線班)
執行副委員長 佐々木勝紀(運転班)
八木治利昭(駅班)
大石 正昭(駅班)
書記長 古川 俊次(駅班)
書記長 山田 明彦(駅班)

よろしくお願いします!

執行委員 加藤 孝一(運転班)
渡辺 哲治(保線班)
丹治 寛夫(駅班)
難波 和夫(電力班)
佐藤 賢一(電力班)
会計監査 半田 隆(運転班)
佐藤 博美(駅班)

お知らせ
国労会館建設資金返済業務の取り扱い変更について

国労会館建設資金返済業務は1999年度末償還期限以降、(財)国労会館仙台事業部で取り扱いを行うてきたところです。

このたび返済業務が一定の整理を見たこと等から、(財)国労会館仙台事業部で取り扱ってきた業務の残りについて、国労仙台地方本部で引き受けることになりました。

つきましては、今後の国労会館建設資金返済請求については下記に請求をしてください。

記

住所 〒984-0015

仙台市若林区新寺一丁目

名称 国鉄労働組合仙台地

方本部 担当係 岡崎

連絡先 TEL 022-2937460

FAX 022-2997435

請求方法 所定の請求書に必要事項を記載の上「国労会館建設資金受領之證」とあわせて提出してください。